

2019年10月6日、岡見健彦さん、そのIV

高輪教会会堂は、木造の教会堂、昭和8年献堂されました。

アメリカの建築家フランク・ロイド・ライトの工房から帰国したばかりの岡見健彦さんは、1932(昭和7)年建築設計事務所設立。同時に高輪教会の設計にかかったようです。外観・内観ともに、柱・壁を組み合わせたシンプルな構成美が特徴です。とくに礼拝堂の正面は鳥居型の柱・梁を組み合わせた構成で、随所に開口部を設けた光の演出が吟味されていることがうかがえます。玄関部分は一部が吹き抜けとなり、穏やかな光線が上方より導入され、また礼拝堂内部は中央部の天窓と側面の窓に加えて、側面の脚部にもガラス窓を開け、脚部より光が導入される仕組みになっています。

戦後横須賀で仕事をした中で、衣笠病院教会と田浦教会の会堂建築に携わります。

どちらも高輪教会に見られる建築上のモチーフが共通しています。

正面ファサードには軒庇まで上る複数の柱。この垂直の線は神と信仰者の交わりを表すのでしょうか。その上に乗る屋根は、大きな切妻です。同様に交わりが意味されます。

内部は大きな船底をイメージしています。外側には外周を見回すような塔屋が設けられ、箱舟の望楼を思わせられます。教会は、この世界の救いの箱舟である、という健彦さんの信仰を覗う想いです。

大阪・玉出教会の教育館は、ノアの箱舟をイメージしています。設計者・山田和己さんの信仰です。

岡見家は、高輪教会創立以来の会員で、深いつながりがあり、岡見清致(きよむね)さんは創立メンバーでした。高輪教会の前身は、明治15年(1882)に創立された台町教会であり(現在の東海大学高輪キャンパスあたり)、この創立に尽力したのが頌栄女子学院の創立者・清致さんです。

設計者の岡見健彦さんも高輪教会の教会員でした。岡見健彦さんは、昭和47年(1972年)12月3日に帰天しました。74歳でした。